

マクセルグループ、マクセルエナジーグループ 2011年度の環境行動目標と実績

カテゴリ	項目	2011年度目標	2011年度結果	自己評価
環境マインド&グローバル環境経営	環境リテラシー(活用能力)の醸成	エコマインド教育(eラーニング)の受講推進	100%受講	🌿🌿
次世代製品とサービスの提供	エコプロダクツの推進	環境適合製品の拡大 売上高比率 <sup>※1</sup> 71%	72%	🌿🌿
	環境CSRモノづくりの推進	REACH規則対応	含有成分調査の実施	🌿🌿🌿
環境に高いレベルで配慮した工場とオフィス	地球温暖化防止	CO2排出量削減(国内) 30%削減(1990年度比)	46%削減	🌿🌿🌿
		生産高CO2原単位 <sup>※2</sup> 削減 16%削減(国内)(2005年度比)	24%削減	🌿🌿
		生産高CO2原単位削減(拠点別目標) <sup>※3</sup> (海外)(2008年度比) 1%削減(WHM)	20%削減	🌿
	資源の有効利用	輸送時のエネルギー削減(国内) 削減率7%増	20%削減	🌿🌿🌿
		廃棄物発生量削減 40%削減(国内)(2000年度比)	54%削減	🌿🌿🌿
生産高廃棄物原単位 <sup>※4</sup> 削減 17%削減(国内)(2005年度比)		24%削減	🌿🌿	
化学物質管理	生産高水使用量原単位 <sup>※5</sup> 削減(拠点別目標) <sup>※6</sup> (海外)(2008年度比) 現状維持(WHM)	28%削減	🌿	
	VOC <sup>※7</sup> 排出割合 <sup>※8</sup>	5%以下	3.1%	🌿🌿

※1 売上高比率=(環境適合製品売上高)/(マクセルグループ、マクセルエナジーグループの売上高) [評価基準] 🌿🌿:達成 🌿:一部達成  
 ※2 生産高CO2原単位=(CO2排出量)/(生産高)  
 ※3 拠点別目標と結果:(MEL)英国工場は14%減に対し20%減、(MTM)マレーシア工場は27%減に対し15%減、(WHM)中国無錫工場は1%削減に対し20%減  
 ※4 生産高廃棄物原単位=(廃棄物発生量)/(生産高)  
 ※5 生産高水使用量原単位=(水使用量)/(生産高)  
 ※6 拠点別目標と結果:(MEL)英国工場は27%減に対し98%増、(MTM)マレーシア工場は現状維持に対し2%減、(WHM)中国無錫工場は現状維持に対し28%減  
 ※7 Volatile Organic Compounds(揮発性有機化合物の略で、トルエンやメチルエチルケトンなどの揮発性を有し大気中で気体状となる有機化合物)の総称  
 ※8 VOC排出割合=(排出量)/(取扱量)

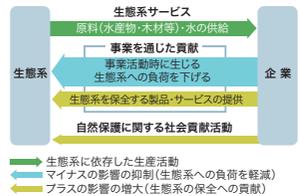
環境マインド&グローバル環境経営

環境保護行動指針

マクセルグループ、マクセルエナジーグループでは、環境活動の指針として「環境保護行動指針」を定めています。経団連が定めた地球環境憲章を支持し、「企業行動基準」に基づいて定めたものです。

また、2009年度より、「日本経団連生物多様性宣言」の趣旨に賛同し、同宣言の「推進パートナーズ」に参加しています。

生態系と企業のかかわり



環境管理体制

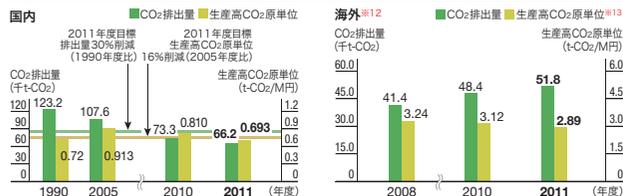
日立マクセル、日立マクセルエナジーでは、2008年12月に国内7地区で統合認証を取得しました。

さらに、2012年度の日立マクセルによる連結子会社統合を受けて、持続可能な社会を目指して「地球温暖化の防止」「資源の循環的な利用」「生態系の保全」に最優先で取り組む日立グループの環境ビジョンを再確認し、いっそうの管理強化に努めています。

法令等の周知と順守の徹底

マクセルグループ、マクセルエナジーグループとも、2011年度中に環境関連の事故・罰金・苦情はありませんでした。

CO2排出量<sup>※11</sup>、生産高CO2原単位



※11 電力/CO2換算係数:1990年度は0.417t-CO2/MWh、2005年度、2010年度は0.423t-CO2/MWh、2011年度は0.36t-CO2/MWhを使用  
 ※12 (MEL)英国工場、(MTM)マレーシア工場、(WHM)中国無錫工場、PT. SJIJONTEC EKADHARAMA INDONESIA インドネシア工場を示す  
 ※13 各国の電力/CO2換算係数(単位:t-CO2/MWh)と各拠点の内作生産高を円換算して求めています。電力/CO2換算係数:英国 0.566、マレーシア 0.534、中国 1.02、インドネシア 0.997 (社)日本電機工業会「各国における発電部門CO2排出原単位の推計調査 報告書Ver.3」を用いています



次世代製品とサービスの提供

REACH規則への対応

欧州REACH規則<sup>※9</sup>では、2011年12月までに73種類のSVHC(高懸念物質)候補リストが公開されています。マクセルグループ、マクセルエナジーグループでは「化学物質管理基準書」に対象物質を登録し管理を行うとともに、ホームページに掲載しています。2011年度は、インクに使用されているCMR<sup>※10</sup>物質の本登録を行いました。

※9 2007年6月1日にEUで新しい化学物質規制「REACH」が施行されました。EU内で年間の製造・輸入量が、事業者あたり1トンを超える化学物質が対象となります  
 ※10 Carcinogenic, Mutagenic, or Toxic to Reproduction (発がん性、変異原性もしくは生殖毒性)

環境適合製品の拡大

マクセルグループ、マクセルエナジーグループでは、環境適合製品セレクトの開発を推進しています。これは日立グループ環境適合設計アセスメント項目に従って、製品のライフサイクルの各段階における環境負荷を評価したもので、2010年までの「スーパー環境適合製品」よりも環境性能の高い基準となっています。

2011年度は、ヘッドホンなど48製品を環境適合製品に、2製品を環境適合製品セレクトに登録しました。

環境適合製品セレクト 認定基準

1. 温暖化防止ファクターまたは資源ファクターが10以上のもの(基準年度を2000年度から2005年度に変更、機能を厳選)
2. 業界トップクラスのもの
3. 社外表彰、公的認定を受けたもの
4. 2005年度製品CO2削減率50%以上のもの

Topics

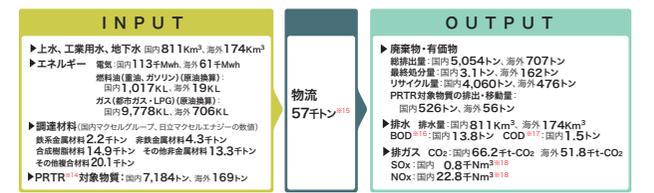
環境適合製品セレクト カセットハードディスク「IV」

デジタルハイビジョン映像をそのまま録画できる500ギガバイトの大容量で、幅8cm、縦11cmという手のひらサイズを実現。耐衝撃性も高く、省資源と超寿命を両立したカセットハードディスク(HDD)です。

環境適合製品セレクト ボタン形酸化銀電池「SR」

国内初のボタン形酸化銀電池「SR」について、長年環境性能向上の取り組みを続けています。その結果、全品種において水銀・鉛使用量ゼロを実現しました。

事業活動と環境負荷



※14 Pollutant Release and Transfer Register(環境汚染物質排出・移動登録)  
 ※15 国内マクセルグループ、日立マクセルエナジーの数量  
 ※16 Biochemical Oxygen Demand(生物化学的酸素要求量)  
 ※17 Chemical Oxygen Demand(化学的酸素要求量)  
 ※18 国内特定施設からの排出量